

教科書	使用しない
参考書	授業中に指示する

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	心理学特別研究					
担当教員	黒崎 優美					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜6	配当学年	2	単位数 4.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究					
授業の概要	<p>目的： 研究者として、また臨床家として必要な知識を習得し、修士論文に生かすことを目的とします。</p> <p>概要： 「臨床心理学特別研究B」で出した研究結果を考察し、修士論文を完成させます。</p> <p>キー・ワード： 臨床心理学、精神分析、対象関係論</p>					
到達目標	精神分析的な臨床と研究の進め方を学び言語化できる。 修士論文の研究方法を実践し、その結果を説明できる。					
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究結果の整理(1) 第3回 研究結果の整理(2) 第4回 研究結果の考察(1) 第5回 研究結果の考察(2) 第6回 成果と課題の整理(1) 第7回 成果と課題の整理(2) 第8回 論文作成(1)(目次) 第9回 論文作成(2) 第10回 論文作成(3)(問題の背景) 第11回 論文作成(4) 第12回 論文作成(5)(先行研究のまとめ) 第13回 論文作成(6) 第14回 論文作成(7)(目的と仮説) 第15回 論文作成(8) 第16回 論文作成(9)(研究方法) 第17回 論文作成(10) 第18回 論文作成(11)(結果) 第19回 論文作成(12) 第20回 論文作成(13)(考察) 第21回 論文作成(14) 第22回 論文作成(15)(体裁と全体の構成) 第23回 論文作成(16)(要旨) 第24回 論文作成(17) 第25回 研究発表(1)(発表資料作成) 第26回 研究発表(2) 第27回 研究発表(3)(発表資料改善) 第28回 研究発表(4) 第29回 今後の研究の進め方について(1) 第30回 今後の研究の進め方について(2)					
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 精神分析、対象関係論、そして研究テーマに関する文献購読を積極的に行ってください。					
授業方法	演習、個別指導					
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%					
教科書	なし					
参考書	授業内で指定する					

参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
-----	---------------------------

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	心理学特別研究					
担当教員	中村 博文					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜6	配当学年	2	単位数 4.0
授業のテーマ	修士論文研究					
授業の概要	自身が決定したテーマについて研究し、修士論文としてまとめる。					
到達目標	自身が決定したテーマについて、適切な方法で研究を進めることができる。 形式に則った修士論文を作成できる。 公聴会において修士論文研究の発表を行い、質疑応答を行うことができる。					
授業計画	#01 : 研究テーマに関する文献レビュー (1) 報告者 1 の研究テーマについての報告と検討 1 #02 : 研究テーマに関する文献レビュー (2) 報告者 2 の研究テーマについての報告と検討 1 #03 : 研究テーマに関する文献レビュー (3) 報告者 1 の研究テーマについての報告と検討 2 #04 : 研究テーマに関する文献レビュー (4) 報告者 2 の研究テーマについての報告と検討 2 #05 : 研究テーマに関する文献レビュー (5) 報告者 1 の研究テーマについての報告と検討 3 #06 : 研究テーマに関する文献レビュー (6) 報告者 2 の研究テーマについての報告と検討 3 #07 : 研究テーマに関する文献レビュー (7) 各報告者による報告のまとめ #08 : 研究計画の検討 (1) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 1 #09 : 研究計画の検討 (2) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 1 #10 : 研究計画の検討 (3) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 2 #11 : 研究計画の検討 (4) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 2 #12 : 研究計画の検討 (5) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 3 #13 : 研究計画の検討 (6) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 3 #14 : 研究計画の検討 (7) 報告者 1 による研究計画の報告と検討 4 #15 : 研究計画の検討 (8) 報告者 2 による研究計画の報告と検討 4 #16 : 研究結果の整理と分析 (1) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 1 #17 : 研究結果の整理と分析 (2) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 1 #18 : 研究結果の整理と分析 (3) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 2 #19 : 研究結果の整理と分析 (4) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 2 #20 : 研究結果の整理と分析 (5) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 3 #21 : 研究結果の整理と分析 (6) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 3 #22 : 研究結果の整理と分析 (7) 報告者 1 によるデータ分析の結果報告 4 #23 : 研究結果の整理と分析 (8) 報告者 2 によるデータ分析の結果報告 4 #24 : 研究結果の整理と分析 (9) 各報告者によるデータ分析のまとめ #25 : 修士論文の作成 (1) 報告者 1 による修士論文報告 1 #26 : 修士論文の作成 (2) 報告者 2 による修士論文報告 1 #27 : 修士論文の作成 (3) 報告者 1 による修士論文報告 2 #28 : 修士論文の作成 (4) 報告者 2 による修士論文報告 2 #29 : 公聴会資料の作成 (1) 公聴会資料の作成 #30 : 公聴会資料の作成 (2) 公聴会資料の完成					
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の研究テーマに沿って、研究を進めること。					
授業方法	演習形式。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。					
評価基準と評価方法	研究へのコミットの程度 (20%)、および作成された修士論文 (60%)、公聴会での発表と質疑応答 (20%) に基づいて、総合的に評価する。					
教科書	指定しない。					

参考書	適時紹介する。
-----	---------

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	心理学特別研究					
担当教員	待田 昌二					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数 4.0
授業のテーマ	修士論文の作成					
授業の概要	心理学の専門的な学びの実践として修士論文を作成する。先行研究を充分に検討してテーマ設定するだけでなく、心理学の学術雑誌の専門論文の形式、内容を研究して参考にしながら、学術論文の体裁を備えた修士論文の作成を目指す。調査・実験にあたって配慮すべき倫理的問題について検討することも重要な点である。あわせて、プレゼンテーション技術の習得を目指す。					
到達目標	心理学の研究を行い、論文にまとめ発表する。					
授業計画	第1回 修士論文テーマの設定 第2回 先行研究リスト作成 第3回 特に注目すべき先行研究 第4回 先行研究の総括 第5回 修士論文目的の設定 第6回 修士論文仮説の設定 第7回 先行研究における研究方法の検討 第8回 研究倫理の検討 第9回 研究方法の設定 第10回 中間報告の作成準備 第11回 中間報告の作成 第12回 中間報告 第13回 中間報告に基づく研究目的、方法の調整 第14回 研究の実施 第15回 研究の追加実施 第16回 データ処理方法の確認 第17回 データ集計 第18回 データ分析 第19回 基本的統計 第20回 統計的検定 第21回 結果のグラフ化（1） 第22回 結果のグラフ化（2） 第23回 結果の文章化（1） 第24回 結果の文章化（2） 第25回 考察（1） 第26回 考察（2） 第27回 体裁のチェック 第28回 修士論文の仕上げ 第29回 修士論文発表内容の検討 第30回 修士論文公聴会の準備					
授業外における学習（準備学習の内容）	先行研究の収集、研究の実施、分析、論文執筆、発表準備					
授業方法	演習					
評価基準と評価方法	課題の提出など平常点20%、論文60%、発表20%					
教科書	使用しない					

参考書	
-----	--

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	精神医学特論					
担当教員	若栄 徳彦					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数 2.0
授業のテーマ	心理臨床家が身につけるべき精神医学的知識・見方を学ぶ。					
授業の概要	精神医学という分野が網羅する事柄は膨大だが、可能な限り心理臨床家にとって役立つ形で、精神医学的知識・見方を身につけられるよう、講義内容を提示したいと考える。					
到達目標	精神医学的知識・精神症状学・治療・各精神疾患・司法精神医学を理解し、心理臨床に生かせるようにする。					
授業計画	以下の全ての項目を扱う事は困難なので、いくつかの項目を選び、講義する予定である。 1. 総論 2. 各論 第1回 ①精神症状学 第6回 ①症状性を含む器質性精神障害 第2回 ②神経心理学 d 第7回 ②てんかん 第3回 ③睡眠と脳波 第8回 ③物質関連障害 第4回 ④心理検査と評価尺度 第9回 ④内因性の精神障害 第5回 ⑤治療 第10回 ⑤神経症 第11回 ⑥生理的及び身体的要因に関連した障害 第12回 ⑦パーソナリティ障害 第13回 ⑧小児期・青年期の精神障害 1 第14回 ⑨小児期・青年期の精神障害 2 第15回 ⑩精神医学と社会					
授業外における学習（準備学習の内容）	実践に勝る修行はない。心理実習を通じて精神医学的臨床の理解を深めて頂きたい。実習の中でどの様な授業外の学習が必要か、自分なりに気づいていくビジョンクエストを進めることである。					
授業方法	講義を中心とする。必要に応じて配布資料を用いる。					
評価基準と評価方法	授業中の姿勢10・参加度10・レポート80の割合で評価する。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。					

参考書	『マインドフルネス-基礎と実践-』 貝谷久宣・熊野宏昭・越川房子編著 日本評論社 987-4-535-98424-0
-----	--

科目区分	【修士】 心理学専攻科目					
科目名	発達心理学特論Ⅰ					
担当教員	久津木 文					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数
授業のテーマ	発達心理学（乳幼児期）についての演習					
授業の概要	乳幼児期におけるさまざまな能力の発達について、主に、心の理論や社会性の発達についての代表的な実験論文を最終的には読む予定であるが、まずは基礎的な知識を身に着けることを中心とするので、学部時代に発達心理学を履修していない者でも履修することが可能である。					
到達目標	まずは発達心理学の基礎的な知識をつけることができ、専門的文献を読めるようになる。 専門分野における論文の書き方や理論を獲得できる。					
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 心の理論の仕組み 第3回 心の理論の認知的構造 第4回 乳幼児期の心の理論 第5回 心の理論と感情理解 第6回 心の理論の学習性 第7回 自閉症と心の理論 第8回 自閉症児と情動 第9回 自閉症児の心の読み取り 第10回 自閉症児の善悪判断 第11回 心の理論と文化 第12回 発達を考える 第13回 個人の興味の発表 幼児期～児童期 第14回 個人の興味の発表 青年期～成人期 第15回 総括					
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のある文献を読み進めておく。					
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション					
評価基準と評価方法	論文についての発表＆ディスカッション（60%） 最終レポート（40%）					
教科書	指定しない					
参考書	「心の理論」から学ぶ発達の基礎 ミネルバ書房					

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	発達心理学特論II					
担当教員	久津木 文					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数
授業のテーマ	発達心理学についての演習					
授業の概要	発達心理学特論Iで読んだ文献をもとにした比較的新しい論文を読むことで学術論文の探し方や理解のしかたを学ぶのが目的である。個別に気になる・興味のあるテーマに沿って、古い文献から新しい文献を探り、めぼしいものを講読し、その内容を理解して発表をする。最終的には、自分が興味をもったテーマについてすでに何がわかっており、最新動向はなにかについて一貫性をもってまとめられるようになることを目指す。					
到達目標	発達心理学における専門的文献を読めるようになる。 専門分野における論文の書き方や理論を習得する。					
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 文献講読（先行研究）・発表 (1)乳児期 第3回 文献講読（先行研究）・発表 (2)幼児期 第4回 文献講読（先行研究）・発表 (3)児童期 第5回 論文講読（先行研究）(1)認知発達 第6回 論文講読（先行研究）(2)社会性発達 第7回 論文講読（先行研究）(3)言語発達 第8回 論文講読（先行研究）(4)発達障がい 第9回 論文講読（最新研究）(1)認知発達 第10回 論文講読（最新研究）(2)社会性発達 第11回 論文講読（最新研究）(3)言語発達 第12回 論文講読（最新研究）(4)発達障がい 第13回 個人の興味の発表 認知発達・社会性発達 第14回 個人の興味の発表 言語発達・発達障害 第15回 総括					
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のある文献を読み進めておく。					
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション					
評価基準と評価方法	論文についての発表＆ディスカッション 60% 最終レポート 40%					
教科書	指定しない					
参考書						

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	臨床心理学特別研究A					
担当教員	黒崎 優美					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究					
授業の概要	<p>目的： 研究者として、また臨床家として必要な知識を習得し、修士論文作成に生かすことを目的とします。</p> <p>概要： 臨床心理学、特に精神分析に関する文献を購読し、興味のある課題と結びつけ、各自の研究テーマを決定します。</p> <p>キー・ワード： 臨床心理学、精神分析、対象関係論</p>					
到達目標	精神分析的な臨床と研究の進め方を学び言語化できる。 修士論文の研究テーマと仮説モデルを明確化できる。					
授業計画	第1回 オリエンテーション(研究の進め方) 第2回 文献研究(興味ある課題に関する先行研究のまとめ)(1) 第3回 文献研究(興味ある課題に関する先行研究のまとめ)(2) 第4回 文献研究(先行研究の成果と課題の明確化)(1) 第5回 文献研究(先行研究の成果と課題の明確化)(2) 第6回 文献研究(理論的背景のまとめ)(1) 第7回 文献研究(理論的背景のまとめ)(2) 第8回 文献研究(理論・モデルの応用)(1) 第9回 文献研究(理論・モデルの応用)(2) 第10回 研究テーマの明確化(1) 第11回 研究テーマの明確化(2) 第12回 仮説モデルの作成(1) 第13回 仮説モデルの作成(2) 第14回 研究計画(1) 第15回 研究計画(2)					
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 精神分析(特に対象関係論)や興味ある課題に関する文献購読を積極的に行ってください。					
授業方法	演習、個別指導					
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%					
教科書	なし					
参考書	メッド・ハフシ(2003)『ビオンへの道標』ナカニシヤ出版					

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	臨床心理学特別研究B					
担当教員	黒崎 優美					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究					
授業の概要	<p>目的： 研究者として、また臨床家として必要な知識を習得し、修士論文作成に生かすことを目的とします。</p> <p>概要： 「臨床心理学特別研究A」で決定した研究計画に基づき、研究方法を決定し、データの収集と分析を行います。</p> <p>キー・ワード： 臨床心理学、精神分析、対象関係論</p>					
到達目標	精神分析的な臨床と研究の進め方を学び言語化できる。 修士論文の研究方法を実践し、その結果を説明できる。					
授業計画	第1回 研究方法の検討(1) (尺度の収集) 第2回 研究方法の検討(2) 第3回 研究方法の検討(3) (尺度項目の検討) 第4回 研究方法の検討(4) 第5回 研究方法の検討(5) (データ処理法の検討) 第6回 研究方法の検討(6) 第7回 研究方法の検討(7) (質問紙の作成等) 第8回 研究方法の検討(8) 第9回 データの収集(1) (データ収集の計画) 第10回 データの収集(2) 第11回 データの分析(1) 第12回 データの分析(2) 第13回 研究結果のまとめ(1) 第14回 研究結果のまとめ(2) 第15回 今後の研究の進め方について					
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 精神分析(特に対象関係論)や興味ある課題に関する文献購読を積極的に行ってください。					
授業方法	演習、個別指導					
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%					
教科書	なし					
参考書	授業内で指定する					

参考書	講義の中で紹介する。
-----	------------

授業方法	講義、演習、実習。
評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%）、各種報告書や作成資料（30%）、カンファレンスでの報告や発言（30%）により評価する。
教科書	鑑 幹八郎・名島潤慈（編著） 2010 心理臨床家の手引き 第3版 誠信書房 ISBN978-4-414-40059-5
参考書	授業の進行に伴って紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	臨床心理査定演習I					
担当教員	黒崎 優美					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	臨床心理査定の実践的理解					
授業の概要	<p>目的： 臨床心理査定、特に検査法について、代表的な臨床心理検査の施行と採点ができるよう実践的知識を習得することを目的とします。</p> <p>概要： 互いに被検査者・検査者・記録者となり代表的な臨床心理検査を施行し、そのデータを用いて、採点方法、解釈の仕方、所見の書き方などを学びます。</p> <p>キー・ワード： 臨床心理査定、臨床心理検査、ロールシャッハ・テスト</p>					
到達目標	代表的な臨床心理検査(特にロールシャッハ・テスト)について、施行・採点・解釈を行い、所見としてまとめることができる。					
授業計画	第1回 オリエンテーション(臨床心理査定方法の類型と概要) 第2回 ロールシャッハ・テスト(1) ~施行法~ 第3回 ロールシャッハ・テスト(2) ~スコアリング法~ 第4回 ロールシャッハ・テスト(3) 第5回 ロールシャッハ・テスト(4) ~スコアリング実践~ 第6回 ロールシャッハ・テスト(5) 第7回 ロールシャッハ・テスト(6) ~結果の整理法~ 第8回 ロールシャッハ・テスト(7) 第9回 ロールシャッハ・テスト(8) ~結果の解釈法~ 第10回 ロールシャッハ・テスト(9) 第11回 代表的な臨床心理検査(1) 第12回 代表的な臨床心理検査(2) 第13回 臨床心理検査所見の書き方(1) 第14回 臨床心理検査所見の書き方(2) 第15回 総括					
授業外における学習(準備学習の内容)	作業は原則課題とし、授業時間を使って理解の共有・修正・確認を行います。					
授業方法	演習					
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：40%、提出物：60%					
教科書						
参考書	片口安史著 1987 『新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究』 金子書房 ISBN10:4760825487					

教科書	授業の進行に伴って紹介する
参考書	授業の進行に伴って紹介する

科目区分	【修士】心理学専攻科目					
科目名	臨床薬理学特論					
担当教員	若栄 徳彦					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数 2.0
授業のテーマ	心理臨床家が知っておくべき向精神薬の基本的事柄について学習する。					
授業の概要	薬物心理学とは、薬を使用することによって精神がどのように構成されているかを探る学問である。薬物心理学を念頭に置いて、向精神薬が作用するメカニズムに関して化学的・生物学的な基盤を学習する。続いて、各種向精神薬（抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗精神病薬など）について各種の特徴（プロフィール）、副作用について各論で学習する。					
到達目標	臨床薬理学の内、精神薬理学の基礎について理解できるとともに、薬物心理学を念頭に置いて、心理相談の中で薬についてわかりやすく説明できる様になる。					
授業計画	第1回 総論①概念 第2回 ②向精神薬の作用メカニズムについて1 第3回 ③向精神薬の作用メカニズムについて2 第4回 ④向精神薬の臨床場面で使用する実際について1 第5回 各論①抗精神病薬1 第6回 ②抗精神病薬2 第7回 ③抗うつ薬1 第8回 ④抗うつ薬2 第9回 ⑤気分安定薬1 第10回 ⑥気分安定薬2 第12回 ⑦睡眠薬1 第13回 ⑧睡眠薬2 第14回 ⑨抗認知症薬1 第15回 ⑩抗認知症薬2 以上について学習する。					
授業外における学習（準備学習の内容）	心理実習、特に医療機関実習等で薬の実際について理解を深めて頂きたい。その為にどの様な授業外学習を行つたらいいか、自分なりに気づいていくことになる。					
授業方法	講義を中心とする。必要に応じて、配布資料を用いる。					
評価基準と評価方法	授業中の姿勢10・参加度10・レポート80の割合で評価する。					
教科書	特になし					
参考書	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。					